

## 平成24年度 特別活動部会研究計画

### 1 研究主題

自発的, 自治的な活動を通して,  
自己を生かしながら望ましい人間関係を築く力を育てる特別活動

### 2 研究主題について

本部会では今日的課題を解決するために, 特別活動が育てたい子どもたちの態度や能力を次のように考え4か年の継続研究を行っている。

- 自らの個性や能力の伸長を図りながら, 互いの個性や立場を尊重する態度
- よりよい生活や人間関係を築く力
- 周りの人々を思いやり, 協力する態度や社会に参画する態度
- 集団や社会の一員としての自覚や自治的能力
- 自己の生き方についての考えを深め, 自己を生かす能力

さらにこれまでの2か年の研究から次の能力を加えたい。

- 自分の考えを深め自信をもって伝える力

新学習指導要領では, 特別活動の全体目標に「人間関係」が加えられた。さらに, 各活動・学校行事の目標に「望ましい人間関係の形成」が示された。今日的課題を解決するためには, 特に「人間関係を築く力」の育成が求められているのである。また, 道徳的指導の充実を図る観点から「自己を生かす能力を養う」が加えられた。

本年度はこの改訂の趣旨と昨年度までの成果を生かしながら, 「自己を生かしながら望ましい人間関係を築く力」に焦点を当て, 今日的課題の解決を目指していきたい。そして, 全体計画や年間指導計画, 指導のめやすなどを見直し, さらに望ましい集団活動のあり方について検討を加えたい。また, 活動内容(2)や学校行事などでも自主的, 実践的な活動を助長する効果的な指導の展開について研究を深めたい。そして, 自己を生かしながら望ましい人間関係を築く力を育てていきたいと考え, 本主題を設定した。

### 3 これまでの研究の成果

平成10年度以降, 特別活動の本質である自発的, 自治的な活動を重視するという視点から, 「子どもたちの自発的, 自治的な活動を通して, 『生きる力』をはぐくむ特別活動」という主題を設定し, 研究を進めてきた。

その結果, 次のことが確かめられた。

#### (1) 教師の姿勢

- 教師が「子どもたちの活動の時間と場を確実に保障していくこと」や「適切な指導のもとに, 活動の流れを大切にしながら, 子どもたちの活動を継続して見守っていくこと」が大切である。
- 全教職員が共通理解を図り, 適切な指導を積み重ねていくことで, 学校全体の取り組みに広がる。

#### (2) 子どもの変容

- 自分のよさに気づき, 活動の中でそのよさを生かしていこうとする意識が高まってきた。
- 自分たちの生活を見つめ直そうとする問題意識が高まり, 友達とともによりよい学級・学校生活を目指して, 主体的に問題解決に取り組む態度が身に付いてきた。
- 互いのよさや思いを認め, 共に高め合い, 協力しながら活動する態度が身に付いてきた。
- 日常の学習や生活の様々な場面において, 学級活動や異年齢集団活動の経験が生かされ自主的に取り組もうとする態度が身に付いてきた。
- 少数意見や異なる意見を大切に, 折り合いを付けながら解決を図り, 「自分も周りも楽しい学級や学校にしたい」という意識が高まってきた。

このような自尊自律, 人間関係調整力, 自治的能力などの豊かな人間性や社会性, 友達への思いやりやいたわりといった道徳的な態度が育ってきた。さらに, 異年齢集団活動を通して, 高学年は思いやりの気持ちや責任感, 低学年は尊敬や感謝の気持ちが芽生えてきた。

さらに, 平成23年度徳島県小学校特別活動研究大会(那賀町立鷺敷小学校)では, 「自分に自信をもち, 自己実現できる子どもや友達のよさに気づくことができる子ども」が育ってきたことが報告された。

### 4 研究の内容

各活動・学校行事について, 各内容の基礎的・基本的事項をとらえたうえで, 確実な定着を図る。また, 各内容の特質を生かしながら指導と評価の一体化を図り, 昨年度改訂した「新・特活ハンドブック」や「特別活動グッズCD」の活用を一層推進し, 次のことについて研究を

進める。(※改訂版「新・特活ハンドブック」と特別活動グッズ集CDについては、県立総合教育センターのHPよりダウンロード可能)

(1) 指導計画の作成

① 特別活動の全体計画の作成

- 特別活動の目標が調和的かつ効果的に達成するために作成する。
- 全教職員の共通理解を図り、協力体制が確立するようにする。

② 年間指導計画の作成

ア 学級活動

- 学校で作成した年間指導計画をもとに、学級ごとの学級活動の年間指導計画や1単位時間の指導計画を作成する。
- 学級活動においては、活動内容(1)の時間を十分確保し、話合いの活動を充実し、活動内容(2)は統合したり、生徒指導との関連を図ったりして指導計画を作成する。
- 現在及び将来の生き方について考え、自己を生かそうとする生活態度を育てる指導を工夫する。

イ 児童会活動

- 学校の実態をふまえて、児童会活動の組織を編成する。  
※ 月に1回、代表委員会を実施するように計画を立案する。

ウ クラブ活動

- 子どもの興味・関心をふまえて計画し、実施する。  
※ クラブ活動については、週時程の中に位置付け、年間20～30単位時間実施する方向で計画を立案する。

エ 学校行事

- 学校行事の一部を子どもたちが分担し、自主的運営ができるようにする。

※ ①や②の作成に当たっては次のことを配慮する。

- 子ども、学校、家庭、地域社会の実態に応じ、創意を生かす。
- 各教科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間などとの関連をふまえる。
- 道徳の時間との関連については、特別活動の特質を生かして道徳教育の内容との関連を考え、日常生活における道徳的実践の指導の充実を図る。
- 全教職員の共通理解のもと、各活動・学校行事の相互の関連を図る。
- 自発的、自治的な活動を助長できるように、学校や学年、学級の指導目標や育てたい力を明らかにする。
- 言語活動の充実を図る。

(2) 指導内容

特別活動において望ましい人間関係を築く力を育てるということは、「なすことによって学ぶ」という特別活動の特質を具現化することであり、望ましい集団活動の中で、自ら問題を見つけ、自らの考えを築き上げ、集団の成員とともに協力し合って問題を解決していく資質や能力を養うことである。

その集団活動を規定する自発的、自治的な活動とは、

- |                           |
|---------------------------|
| ① 学級・学校生活の中から問題を見つける。     |
| ② 問題解決の方法や活動過程を話し合い、決定する。 |
| ③ 実践活動において、互いに協力して役割を果たす。 |
| ④ 活動の成果について振り返り、評価する。     |

話合い活動は、  
⇨ **集団討議による  
集団目標の集団決定**

といった子どもたち主体の活動と考える。この自発的、自治的な活動を重視することを念頭に置いて研究を深める。

① 学級活動の充実

- 学級や学校生活の充実と向上、改善を目指し、主体的に諸問題の解決に取り組む活動をするための組織づくりや運営の仕方
- 自発的、自治的な活動過程における教師の適切な指導のあり方
- 話合い活動で、活動内容(1)では集団討議による集団目標の集団決定、活動内容(2)では集団思考を生かした個人目標の自己決定ができるようにする望ましい活動の展開のあり方
- 「折り合いを付ける」ことを大切に話合い活動の工夫と展開のあり方
- 自主的、実践的な話合いを効果的に取り入れた活動内容(2)の展開と指導の改善

活動内容(2)では、

- |                       |
|-----------------------|
| ① 共通の課題を把握する。         |
| ② 情報を収集する。            |
| ③ 情報の共有化を図る。          |
| ④ 自己決定をする。            |
| ⑤ 努力の成果について振り返り、評価する。 |

話合い活動は、  
⇨ **集団思考を生かした  
個人目標の自己決定**

- ② 児童会活動の活性化
  - 学校生活の充実と向上を図る「児童会の計画や運営」「異年齢集団による交流」「学校行事への協力」の内容の充実の工夫と、成員の願いやよさを生かした異年齢集団活動としての児童会活動のあり方と場や機会の確保の工夫
  - 自発的、自治的な代表委員会の話合いの展開と教師の適切な指導のあり方
    - ※各学年の意見が反映されるような話合いの工夫
  - 多様な異年齢集団活動の充実の工夫と展開のあり方
- ③ クラブ活動の計画的な実施
  - 興味や関心を追求する異年齢集団活動としての組織づくりや時間の確保などの運営の仕方と「クラブの計画や運営」「クラブを楽しむ活動」「クラブの成果の発表」の内容充実の工夫
  - 自発的、自治的な活動過程における教師の適切な指導のあり方
- ④ 学校行事の充実
  - 一人一人の子どもの参加意識や期待感を高め、活動の過程（事前活動・体験活動・事後活動）を重視するための手だてと行事間の関連や統合を図り、重点化するための工夫
  - 自然の中での集団宿泊体験や多様な人々との交流体験、文化的な体験などの充実を図る指導のあり方
  - 自主的、実践的な活動を取り入れた効果的な学校行事の展開の工夫と教師の適切な指導のあり方
  - ※ これらの4つの内容の指導については、それぞれの特質を生かしながら、他の内容との関連を図った指導をすることも考慮する。また、より自主的、実践的な活動が充実するように「学級集団の育成上の指導のめやす」や「発達の段階に即した指導のめやす」の改善を図る。

(3) 評価

- ① 活動における個や集団の変容を重視し、活動意欲の向上につながる評価のあり方
  - 育てたい態度や能力を明確にとらえた評価
  - 教師が行う評価の内容や方法の工夫改善
  - 子どもが行う自己評価、相互評価の工夫改善
  - 活動を振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動を充実させる工夫
  - 活動過程における子どもの学びやよさを大切にする評価の工夫
- ② 指導の改善に生きる評価の工夫
  - 自発的、自治的な活動の一層の展開につながる指導計画、指導方法の評価のあり方
  - 発達の段階に即した指導のめやすの作成と具体的な評価規準の設定
  - 児童会活動やクラブ活動、学校行事における教師間の連携した評価の工夫

5 研修の計画

- (1) 本主題においては、平成22年度～25年度の4か年継続して研究する。
- (2) 研究の部会および各郡市の研究分担は、別表の通りとする。
- (3) 特別活動夏季研究協議会  
期日 7月31日(火) 会場 教育会館
- (4) 実践研究の成果をまとめ、研究紀要「特活 第56集」を刊行する。

部 会		発表郡市	協力郡市
学級活動(低学年)	24年夏季研	小松島市・那賀郡	勝浦郡
	25年統一大会	勝浦郡	小松島市・那賀郡
学級活動(中学年)	24年夏季研	三好市三好郡	
	25年統一大会	三好市三好郡	
学級活動(高学年)	24年夏季研	名西郡・吉野川市	阿波市
	25年統一大会	阿波市	名西郡・吉野川市
児童会活動	24年夏季研	美馬市美馬郡	
	25年統一大会	美馬市美馬郡	
クラブ活動	24年夏季研	海部郡	阿南市
	25年統一大会	阿南市	海部郡
学校行事	24年夏季研	徳島市名東郡	
	25年統一大会	徳島市名東郡	
25年統一大会	会場郡市	鳴門市	板野郡